



くさぶえ

第73号

千葉県ことばを育てる会

令和4年2月発行

<事務局>

〒292-0822 千葉県木更津市桜井 1450

Tel&Fax 0438-36-2605 宮本方

つながりを大切に

千葉県特別支援教育研究連盟 言語障害教育研究部会 部会長

大網白里市立増徳北小学校長 高橋 和雄



いまだ完全な収束の見通しの立たない感染症を恐れながらの生活ですが、対策と工夫を重ねながら学校は少しずつ歩みを進めています。昨年度までは千葉県ことばを育てる会のみなさまからの要望書を受け取る立場での仕事でしたが、本年度からは子供たちと先生方と過ごす毎日です。また、ご縁もあって千葉県特別支援教育研究連盟言語障害教育研究部会長も仰せつかっております。

さて、令和3年1月に「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」がとりまとめられ、我が国の特別支援教育に関する方向性があらためて示されました。また、6月に文部科学省は「教育支援資料」を「障害のある子供の教育支援の手引き」として改定し、障害のある子供やその保護者、市町村教育委員会を始め、多様な関係者が多角的、客観的に参画しながら就学を始めとする必要な支援を行う際の基本的な考え方を示しました。社会全体の環境の変化も踏まえて、子供への支援やその在り方が問われています。

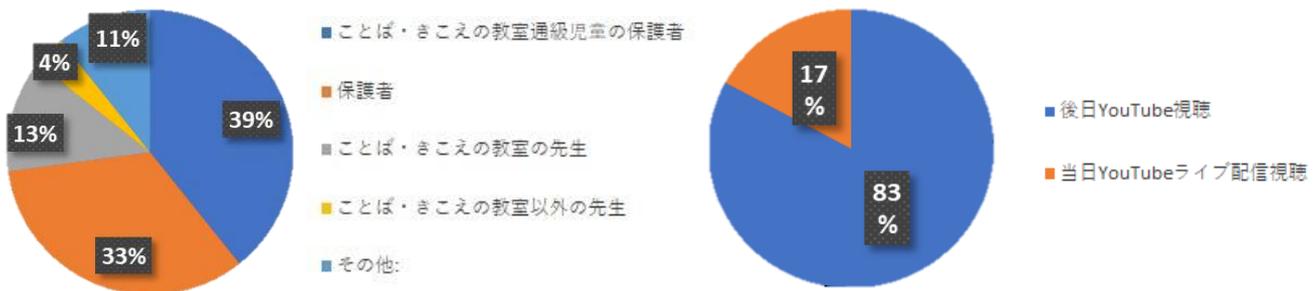
実際に学校で子供たちや先生方と過ごしてみると課題は山積みで、管理職のリーダーシップとは何だろうと自問する毎日です。まずはできることから、個別の指導計画に目を通し、ふだんの教室での声に耳を澄ましてみることから始めました。校内研修で、担当者からことばの教室での取り組みを全職員に周知する時間を設けたり、担当者から通級による指導ならではの苦労や工夫を聞き取ったりもしました。ことばの教室に通うために児童が教室を出るとき、「いってきます。」というと、学級担任と他の児童が「いってらっしゃい。」と手を振りながら応えています。小さな一歩だが、確かな一歩だと感じています。

次に、校外へ目を向け私の勤める山武地区での取り組みを紹介します。山武地区教育長協議会の主催で、各市町の教育長、教育委員会の担当者、設置校の校長を対象に研修会が開催されました。講師は山武地区でことばの教室を担当するすべての先生方です。ことばの教室での指導内容や授業のようすや担当者として校長に知ってほしいことなどを、一人一役を担い伝えていただきました。参加者からは、「勉強になった。」「時間があれば詳しく聞いてみたいことがあった。」などの声が上がっていました。

今後も、通級担当者と学級担任、担当者と管理職、小学校と中学校、学校と保護者、千葉県ことばを育てる会と千葉県言語障害教育研究部会とのつながりを大切に、確かな歩みを進めてまいりたいと思います。



令和3年10月22日 一般社団法人こども未来共生会理事長の中島展(ひろと)先生をお招きし講演会を開催しました。新型コロナウイルスの影響で、当初予定していた会場での開催は断念しYouTube配信(後日配信を含む)となりました。手探り状態から始まったWEB講演会でしたが、会員の皆さんをはじめ、クチコミやSNSでつながった保護者や先生など県外からも含めて150名を超える申込みがありました。内容の一部を抜粋し、要約したものをご紹介します。申込者の割合は下記グラフです。



「忙しいから、後で」「怒らないから言ってごらん」「何で分からないの」。これらの言葉は、子どもには怒っているということしか伝わらずストレスになる。子どもの多様性を見つけていけば、きっと子どもも親もストレスを軽減できる。「ちゃんとしなさいと言っていて自分は寝っ転がって煎餅を食べている」「お父さんはいつも下着で歩いている」などは子どもが親を嫌いになる時。相互理解が大切。打たれ強く、自立心を持った子どもにするために何が必要か、お互いのストレスを減らすために必要なことは何かを3つの視点から考えていこう。

<視点1> 子どもの行動の背景を理解して関わっていく

目の前の行動はわがまま? 特性? 注目行動?

<視点2> 子どものストレスに付き合うために親がすべきこと

子どもの特性が分かってきたら親は何をする?

多様性とは認める作業。違いは個性……失敗は成功の元。失敗は教えるきっかけで叱るきっかけにしない。他の子と比較しないこと。遠足で行った動物園の絵が描けない子には「絵を描くからライオンを見てこようね」と前日に声を掛けておく。テーマを与えるだけで描ける様になる。事前に注意喚起や情報を与えておくことは不安をなくす支援。包丁で料理中、子どもが急に「大好き」としがみついてくることある。包丁や火などの危険があるので料理中は台所に入らないと事前にルールを伝えること。お母さんの機嫌レベルを冷蔵庫に貼って、その時のレベルを伝えるだけで子どもは理解して近づかない。社会性とはルールを守ることなので「空気を読む」ではなく「ルールを守る」にする。ルールを教えていないのに叱るのは、叱られたことしか残らない。特性を理解するだけでなく、私たち大人が事前に伝えることが大事だ。



怒りは伝わる……親がイライラすると子どももイライラすることを「情動伝染」と言う。「どうせ」と言うのは自尊心＝自己肯定感が下がっている時。「どうせ僕はできない」「そんなことを言わないでやりなよ」ではなく「そうかそうか、苦しかったね」と、一言寄り添う言葉を掛けてから提案をしよう。

不要な〇〇べきを手放す……完璧主義のお母さんが、いい加減な子どもに怒るのは「願い」が最初にあるから。「静かにしてほしいな」が「静かにしなさい！」に変わる自分の沸点を知るべき。子どもを理解する前に、まず自分の性格、特性を理解しよう。こだわりが強ければ強いほど沸点は下がってしまう。だから、許容範囲を広げていく（沸点を上げる）努力をして欲しい。そのために子どもの背景を知る。するとイライラは絶対に軽減する。どうしても譲れない「べき」は、「こうしなさい」でなく、適切な言葉「こうして欲しい」で子どもに伝えるのが大事。伝え方の問題で子どもがつまずくことはよくある。

<視点3> 子どもがストレスを溜めないための大人の役割

子どもの気持ちを尊重し、自己肯定感を高める

私たちの発達支援センターのモットーは「45分のミッションで45回褒める」。「怒る」とは感情をぶつけること、「叱る」とは本人のためを思って強く伝えて教えること。しっかり教えていくことが大人の役割だと思う。センターに通う800人のうち40人くらいは学校に行きづらい、または全く行っていない子。朝の怠惰な態度を見てイライラしない親はいない。起立性調節障害でも血圧だけの問題でなく価値観もある。部活や学習支援ルームには楽しいから行く子もいる。選択性緘黙（かんもく）の子も学校でしゃべることを強要されない限りは不登校にならないという。人が嫌いではない。だから子どもの特性を理解し、次のステップに進めていくのは大事だ。

合理的配慮とは、合理的配慮をすることによって合理的配慮のいらない状態を作るための配慮。私たちは学校訪問や合理的配慮のための文書を作ったり、親の支援もしている。年間約130校訪問。お母さんたちが学校に伝えるのが上手くいかない時は、日頃頼りにしている専門職から先生に伝えてもらったり、通院時に先生も同行して医師の話と一緒に聞いてもらったりもできる。

どうして自尊心が必要なのか……自分を大事という気持ち（自己肯定感）がないと人を思いやれない。つまり社会性では自己肯定感が一番大事だということになる。

感覚過敏の中に鈍麻がある。痛みに強い子は人を強く叩く。自分が痛みに強いから人も強いと思いつている。自分は痛くないが、お友だちは痛いと感じてあげなければいけない。

人と上手に関わることでできる子になってほしいと願うならば、まず子どもを信じ、子どもが自分自身を信じることでできる土台を作ってあげるのが親の役割。叱ってばかりいるとその土台がグラグラする。つまずいた時に解決のヒントを与えると「本当だ、できた」の成功体験が増えて自己肯定感が増す。昔、発達の診断は3歳児以降だったが、今は1歳児でも診断できる。自己肯定感を高めていく療育を早期に始められるようになった。

「手伝う」のではなく勇気づける役割を……大人が何もしない方が良くという支援は、自立に向かえば向かうほど大事になってくる。最初は手伝って、徐々に自分でできることを増やしていくと自分に自信

がつく。すると親は見守ることができる。見守ると言うことは、イライラしないと言うことだ。子どもを褒めるだけでなく、考えや気持ちを認めて「よし、やってごらん」と、GOサインを出すと子どもの心が発達する。心の発達を促せないのに色々な事をやりなさいと言うのは難しい。心身症、心の問題は必ず体に出る。「本当に痛いんだね。じゃあ休んでも良いよ。休んでも学校に行く時間はやることをちゃんとやろうね」と言うのは良い。「行ったら治るでしょ」だと「信じてくれていない」となってしまう。「その勉強ができたらゲームやっていいよ」と順番を作り、後は本人に任せる。そうすると耐えることや自信が身に付いてくる。

大人の考えを押しつけない……子どもの葛藤に対応する時は何もしない方が良いというのは、考えを押しつけないということだ。例えば、朝、全て支度をしてあげる。子どもは「僕は忘れ物しない子になった」と変な自信（万能感）が付く。ところが翌日、お母さんが発熱。「いつも用意できてから1人でやってみて」「はい」。体操服を忘れて先生に怒られる。家に帰ると「何で言ってくれなかったんだ！」と、お母さんを非難する。これは自分で乗り越える力が付いていない証拠。すぐに人のせいにするのは万能感の高い証拠。この場合、点検するのは忘れ物がないかではなく、親が手伝い過ぎていないかだ。



乗り越える力のない子は、人からどう見られるかを気にするので絶対に自分ができることを認めない。そうすると面白いことに挨拶や「ありがとう」が言えなくなる。見守る所は見守る。やらせる所はやらせる。子どもの「できる」と言う可能性を信じることは大事だ。

自尊心を持った「信頼できる親」になる……信頼できる親になるためには子どもに対して尊厳と信頼を与えること。「子どもの視線に下りましょう」だけでなく、子どものやっている得意な所の視点に下りていくべき。「ゲームをやめなさい」と言う前に子どものはまるゲームの世界を知って「やっぱりダメ」と言った方が理由付けできる。ただ叱るだけでなく、子どもの世界に少し入ってみて共感性を持つことが大事。よく転ぶ子に「ママも昔、よく転んだよ」と言うと安心する。「何で転ぶの！」と怒るとその後も転び続ける。子どもの世界を知ることがストレス軽減となる。子育ては楽天的で良いし、上手でなくて良い。親も自尊心（自己肯定感）を高めよう。

一人で遊んでいる子がいる。園の先生たちは「ここで遊ぼう」と呼ぶ。もの凄く不快な顔をして遊んでいる。子どもの特性を知らないから良かれと思ってやっていることが子どものストレスにつながっていることはよくある。仲間に入りたいのに入れない子には当然アシストしてあげて。その違いを見極めるためには、自分たちが冷静でいるか点検すること。自分にストレスがある時は、耐性はないし、冷静な判断はできない。

おわりに……私たちも一人一人権利、尊厳を持った人間。親のやり方を含めたオーダーメイドの支援をしてもらおう。本や情報に左右されるのではなく、目の前にいる子どもの困り感に寄り添おう。ポコポコのグラウンドで「ちゃんと走りなさい」と教えるよりも、整備してから「走れたね」と褒めてあげて。グラウンドキーパー（専門職や医師）にきれいにしてもらったって良い。それが子どもを褒めることにつながるのであれば。子どもの「分かって欲しい」と親の「わかった支援」が融合されていけるように！

～ ～ 視聴後のアンケート結果 ～ ～

日常的な事柄がたくさん入っており、大変参考になりました。最初の子どもへの言葉でまず、全て当てはまりました。その後は、集中して聴くことができました。多くの点で、その通りと、うなずきながら拝聴しました。会の存在も知ることができ、感謝します。聞き逃した部分もあるので、後日の配信も、拝聴させていただきます。

生活に密着して具体的なお話でしたので、とてもわかりやすく勉強になりました。保護者の方ももちろんですが、教員や関係の方々にも、ご紹介したいお話でした。

WEBでの講演会は初めての経験でした。聞いているだけなのですがとても緊張してしまいました。先生の実体験を交えたお話も入り、とてもわかりやすかったです。

YouTube配信は好きな時に視聴出来て、聞き逃してしまったところも、戻して見られるのでとても良かったです！中島先生のお話は、今まで子どもの「何故うちの子はこうなのだろう…」と疑問に思っていた答えがありました！（バランスボール買おうと思いました）我が子に当てはまる話も多く、一人頷きながら聞いてしまいました。欲を言えば「強迫的な症状」についても詳しく聞きたかったです。また中島先生の講演会に参加してみたいと思いました。

親だけでなく、子供側にもストレスがある視点、親が掛ける言葉について今一度、振り返りました。親と子の双方からの視点を教えて頂いて分かりやすく、具体的な提案も知り、有難い機会だと思いました。

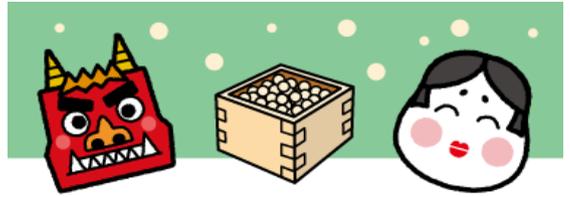
あの時のあの行動はそういった特性があったのか…と色々な発見がありました。メモを取りながら何度も見直しをしながら見ていくことができたのでYouTube配信とっても有り難かったです。子供をもっと観察して理解して認めていこうと思いました。お世話になっている先生に中島先生の講演会凄くよかったと話したら「中島先生は、レジェンドですね！先生もすごく勉強になります」なんて教えていただきました。

特性に応じた対応をすることで親も子もストレスが軽減できることがよくわかりました。子どもが小さいうちにこのような知識があれば、子育ても少しは楽になったと思います。特性を知るには、専門家の知見が必要です。専門家につながりやすい体制がもっと整えばよいと感じました。

親から子どもへの、「どうしたらいいの？」という疑問や、子どもの行動の奥にある特性についてとても分かりやすく、子育ての参考になりました。学校の先生にも知ってほしいと思う内容でした。

アンケート結果からも分かる様に、WEB配信の場合、じっくり見直すことができる点がとても良かったと思いました。また、終了後も申し込みが12月末の配信期間ギリギリまで続いたのも特徴の一つです。同時に、会場で参加者の皆さんと会場に集う意義も再確認出来ました。今回の経験を今後の取り組みに活かして行きたいと思います。最後に、中島先生はじめ会場・設備をお貸しくださった皆さん、多くの方に協力をいただきました。本当にありがとうございました。

県内地区親の会紹介 No.6



【北条小学校・北条幼稚園ことばの教室親の会】 事務局 須田 麻称美

北条小学校・北条幼稚園ことばの教室親の会は、館山市立北条小学校と館山市立北条幼稚園の「ことばの教室」に通う児童・幼児の保護者とOB、教職員によって構成されています。また、北条小学校を拠点として、市内の館野小学校、九重小学校へ巡回指導を行っており、2校の児童の保護者も役員や会員として活動しています。

例年ですと、4月末に総会を行い、活動方針や活動予定等について決議していますが、コロナ禍により集会の開催が難しくなったため、昨年度と今年度は紙面に代えて開催しました。会員の皆さんと年度初めに直接顔を合わせられないことは残念でしたが、一方で、「仕事があるから紙面開催はありがたい。」といった意見もありました。

会の活動として例年、7月には「夏の親子レクリエーション」、冬季に保護者に向けた「学習会」を毎年開催してきました。夏のレクリエーションでは、プラバンのキーホルダー作りや絵の具を使ったエコバッグ作りや身体を使ったゲーム等、普段なかなかできない工作活動や、大人数だからこそできるレクリエーション活動を通して、会員同士や子ども同士の交流を図ってきました。「学習会」では、図書館司書の方に読書や読み聞かせの魅力、発音の専門家の先生からは普段子どもたちが取り組んでいる口や舌の体操と、食習慣や噛むことの大切さなど、ことばの教室や発音はもちろん、子育て全般にも関わることについて教えていただく機会を作ってきました。

コロナ禍ではこれまでのような活動ができない中、少しでも会員同士の交流を図ったり、情報を発信したりするために、話し合っ工夫しながら取り組みを進めています。昨年度の冬は、「オリジナルマスクケース作り」、今年度の夏は「手作りスタンプではがきを送ろう！」と題し、それぞれ各家庭にキットを配布して親子で製作し、教室便りの「やまびこ」で紹介し合うことで交流しました。「簡単な工作だったけど、子どもと一緒に何かを作る機会がなかったので、有意義な時間が過ごせました。」「おうちの人と一緒にできて嬉しかった。」などの感想が聞かれました。コロナ禍でできることを模索しながら考えた取り組みでしたが、行ってよかったと感じられました。また、「学習会」が開催できないので、教室便りでことば遊びや口の体操などを紹介したり、全国ことばを育む会の会報誌『ことば』の冊子を各家庭に回覧したりすることで、情報の発信を行っています。

いずれの活動をする際も、以前は役員会を開いて役員と教職員で話し合い、検討・準備を行っていましたが、現在は役員会の開催も難しい状況ですので、紙面での役員会やアンケート、こまめな電話連絡を行うことで、会員間のつながりを維持するよう努めています。

なかなか先の見通しがもてない状況ですが、「コロナ禍だからできない」ではなく、「コロナ禍だからこそできる」ことを考え、活動を続けていきたいと思えます。



↑クリアファイルを使ったマスクケース



←ペットボトルのキャップを使って作ったスタンプを押した、暑中（残暑）見舞い

県内地区親の会の紹介

【夷隅郡市ことばの教室親の会】 事務局 御宿町立御宿小学校 横山 宏子

○夷隅郡市には、勝浦市、いすみ市、大多喜町、御宿町の4つの市町があります。地区内に現在は小学校が18校あり、そのうち6校にことばの教室が開設されています。ことばの教室親の会がスタートしたのは、昭和41年。保護者から「夷隅にもことばの教室を作ってほしい」という声があり、「愛育会」という名称で結成されたのが始まりです。

○事務局は、1年ずつ交代で担当し、春は総会と講演会、初夏には子育てや発音の学習等についての研修会、秋には親子レクリエーションを開催、年度末には会報を発行してきました。特に親子レクリエーションは、他の小学校の保護者や子どもたちと過ごすことができるのを楽しみにしているという方が多いです。



H27親子ゲーム大会
(じゃんけん列車)



H28カレーライスで会食
(レクリエーションの合間に楽しい交流)



R3紙ひこうき大会
(各家庭での実施となった)

○今年度の親子レクリエーション「みんなで飛ばそう～おんじゅく紙ひこうき大会～」は、新型コロナウイルスの感染状況が収まり、実施できることを期待していましたが、緊急事態宣言が発出され、やむなく中止を決めました。用意していた材料・説明書を配布したところ、感想が届きました。

◆いつもゲームをしたり、YouTube を見ていることが多い我が家の子どもたちにとって、紙ひこうき遊びはとても新鮮だったようです。親子の会話も生まれ私も久々に童心に返って楽しみました。
◆驚くほど飛んで、子どもたちは大騒ぎでした。広いところでお友だちと飛ばせていたらもっと楽しかったんだろうと残念に思いました。次回はみんなで集まれることを楽しみにしています。

夷隅郡市のことばの教室数・通級児童数等の推移

年 度	H13年度	H18年度	H23年度	H28年度	R3年度
ことばの教室設置校数	9校	9校	9校	8校	6校
通級児童数	152名	133名	143名	198名	179名
郡市内児童数	4178名	3815名	3206名	2699名	2367名
通級児の割合	3.6%	3.4%	4.5%	7.3%	7.6%

○ここ数年、郡市内では上の表の通り、ことばの教室の閉室・減室が続きました。郡市内の児童数は、年々減少していますが、通級児童数は増加傾向にあります。そこで、ことばの教室に対する会員の意見を集めるために、アンケートを実施しました。まだアンケートは回収途中ですが、コメント欄に寄せられたたくさんのご意見から、一部を紹介します。会員の皆さんの思いを、郡市の各教育委員会等にお伝えできたらと考えています。

- ◆専門的な指導を受けられる環境が身近にあり、感謝しています。
- ◆担当の先生がよく話を聴いてくださり、子の励みになっています。
- ◆ことばの教室は小学校で終わりなのが残念です。
- ◆悩んでいる親にとって相談できる場所であって、子どもが落ち着いて学習できる場所です。
- ◆(学校には)あって当たり前の、重要な場所だと思っています。

ニュース

前号、くさぶえ第72号で「親の会卒業にあたって」と題して掲載させて頂いた元会長小宮幸子さんが「千葉県特別支援研究連盟推進大会」において感謝状を受けました。

おめでとうございます！



感謝状
小宮幸子様
あなたは特別支援教育の
推進のため 永年にわたり
多大な尽力をされました
よって 本大会を開催する
にあたりここに深甚なる感
謝の意を表します

～ 要望書を届ける ～

事務局長 宮本 紀子

11月26日、加藤会長、中村事務局員、宮本の3名で千葉県教育庁特別支援教育課を訪ね、説明を加えながら教育長に宛てた要望書を提出してきました。教育支援室室長の 根本 敦先生、班長の指導主事 高梨美佐子先生が対応してくださり、話し合いながら要望を伝えることができました。

難聴言語障害教育も、幼児→小学校→中学校→高校というつながりで考えてもらいたいと強く訴えました。先生方もこれらについて様々な角度から考えているとのことでしたので、今後の展開が楽しみです。明るい気持ちで帰途につくことができました。

※2/1（火）に県教委特別支援教育課より対面で要望書について回答を頂ける予定でしたが、残念ながら感染拡大により中止となりました。

【言語部会との交流会について：2022年1月15日（土）】

予定ではポートプラザちば（公立学校共済組合多目的ルーム）にて交流会を予定していましたがオミクロン株等の感染者急増により急遽 Zoom ミーティングで実施されました。1時間という予定の中で十分とはいかなかったとは思いますが、現場の先生方の生のお声をお聞きできる貴重な時間でした。また県の会が提出した要望書と先生方の要望書は合致する点が盛り込まれていることを確認し、今後も先生方との連携を密に「ことばの教室」の課題を一緒に取り組んで行きたいと再確認させて頂きました。先生方お忙しい中、ありがとうございました。

★言語障害研究部会の出席者★

○副部長 渡邊美穂先生 ○事務局長 松本京子先生 ○調査部長 藤田利治先生

○広報部長 山本朋子先生 ○事務局員 長谷川千草先生

☆県の会より 牧相談役、加藤会長、松本副会長 広瀬副会長、宮本事務局長、中村事務局員

<2022年度 前半の予定> ※会場の都合、コロナ感染予

- 4/21（木）第1回役員会 防等の理由で中止・変更についてはご連絡致しますのでご承知おき下さい。
- 5/12（木）第1回理事会
- 6/2（木）第2回役員会
- 6/16（木）総会・第2回理事会

編集後記：コロナ感染拡大で今年度も行事等が中止になりました。その中でZoomという手段で会議については何とか乗り越えて来ました。諦めず工夫していきましょう。担当：広瀬



おもちゃが届きました

今回もパズプロ社からおもちゃをご寄付頂きました。子どもたちが楽しく使ってくれるといいですね。